



多摩湖ウォーキングもマスク片手に記念の写真 (2020.11.28)

撮影：粕川 偉三男

設立十周年に向けて皆さんと一緒に！

支部長 中村 曠 (昭36政経)

新型コロナウイルスの終息の見えないこの頃ですが、会員の皆様にはお元気で活躍のことと存じます。

昨年は定時総会、イベントの多くがコロナ禍の影響を受けました。会員一同に会する定時総会は「書面総会」になりました。皆様のご理解と協力により、新しい若い役員が誕生しました。設立十周年を迎え大きな力です。また、多くのイベントが中止になりました。

校友会会則に「会員の親睦と交流」を目的の一つとして挙げています。しかし、実際には十分に実現できていません。多くの会員同士が街ですれ違ってもわからないままに通り過ぎていくのかもしれませんが、会員お互いが知り合い、街で声を掛け合うそんな校友会にしたいですね。

校友会の地域支部の情報として「ホームページ」があります。「紫紺ネット」ではメールアドレス登録会員に情報を配信しています。また、昨年は「ZOOM」の体験会を重ね、オンラインによる懇談会、忘年会、新年会を実施しました。でも、「一同に会する」に勝るものではありません。一日も早いコロナ終息、イベント、懇談会で親睦・交流を図りたいです。

今年は設立十周年に向けて多くの会員・校友と一緒に祝いましょう。そして校友会に入会し、充実した楽しい人生の実現に皆さんと共に努力していきたいと思っています。ご協力ご支援を宜しくお願いします。

令和二年度の活動及び十周年に向けて

幹事長 粕川 偉三男 (昭48政経)

昨年度は第一回目のコロナ緊急事態宣言下、定時総会は初の「書面総会」となりました。数々の制約がある中、無事に「書面総会」を終えることが出来ました。校友の皆様のご理解いただき、あらためて感謝申し上げます。計画した年間行事につきましては、中止を余儀なくされ、せっかくの交流の場が奪われ残念ではありましたが、「ZOOM」を活用してコミュニケーション不足を補いました。

清瀬ボランティア活動センターの講座に参加し、佐藤幹事、中村支部長のお二人が早速習得されリードしていただきました。最初はぎこちなかったものの徐々にスムーズになってきました。コロナ禍では有効なコミュニケーションツールかもしれません。



明治大学校友会 東京都多摩支部
清瀬地域支部 設立準備総会
於 清瀬市生涯学習センター 平成24年4月22日

さて本年は第十回の定時総会を迎えます。来る五月二十九日(土)に開催の予定で皆様にご連絡させていただくことになっていきます。

振り返りますと平成二十三年先輩諸氏のご努力によって設立準備委員会(世話人九名)が設立され、翌平成二十四年四月に「清瀬地域支部設立準備総会」が開催されました。同年六月に校友会本部より正式に「明治大学校友会清瀬地域支部」として承認されました。設立時には五十人以上の参加が得られず、ご苦勞されたと聞きました。又、設立準備世話人のお一人であった和田様が昨年末にお亡くなりになり残念でなりません。ご一緒に十周年を迎えたかったと強く思っています。

どちらの地域支部でも「高齢化」「女性会員不足」「若手会員不足」等々共通の悩みを抱えておりますが、当清瀬地域支部では徐々にではありますが若手校友に入会いただき、多少なりとも希望の光があります。従前に増して校友会にご支援を賜れば幸甚です。皆様と一緒にコロナ対策を徹底して明るい十周年を迎えたいと思います。



平成24年(2012年)3月24日設立準備委員会

「ZOOM」の活用について

佐藤 房夫 (昭39工)

新型コロナウイルスの蔓延により、社会生活が一変しました。感染防止の有効手段は人と接触しないことであり、「三密」が流行語となりました。仕事はテレワークとなり、学校はオンライン授業となりました。

これらの電子媒体はさまざまありますが、取り組み易く安価であり双方向の会議に適したソフトが「ZOOM」です。スマートフォンやタブレットはソフトを入れればすぐに使用できます。パソコンは新機種であればそのまま使用できますが、古い機種はWebカメラ(三千円程度)が必要です。

九月末に清瀬ボランティア活動センター主催の「ZOOM講習会」を受講し、十月から校友会員に「ZOOM勉強会」を呼びかけて、十二月まで毎週勉強会を開催しました。始めは顔が映らなかったり、マイクがつかず音が出ない等々ありました。ようやく全員がそろつたら時間終了となったことも多々ありました。

十二月二十八日は「ZOOM忘年会」を行いました。それぞれワインやビール片手に和気あいあいと歓談しました。一月六日は「ZOOM賀詞交歓会」を開催し十名が参加しました。全員で新年の挨拶をし、中村支部長が新年の辞を述べたあと、参加者一人一人がコメントをして交流を深めました。一月二十三日は会報作成に向けての「ZOOM編集会議」を開催しました。資料を画面に映しながら掲載内容を討議しました。校友懇談会もなかなか開催が出来ないので、二月七日「ZOOM校友懇談会」を開催しました。定例報告のあと十周年行事について多くの意見が出され有意義な会議でした。資料を画面に映し説明と討論の出来ることがZOOMの良さであることを実感しました。最近では市の講習会や東京都のホームページ等さまざまな分野でZOOMの利用が多くなっています。この機会にぜひご利用をお勧めします。ZOOMの相談は中村支部長か佐藤までお問合せください。

秋の一日く多摩湖ウォーキング

粕川 偉三男 (昭48政経)

不要不急の外出自粛が叫ばれ、開催を検討中でしたが①密では無い②屋外である③十分な間隔が取れる④感染予防を徹底する事などを考慮し開催する事となりました。開催に当たりましては、「清瀬の自然を守る会」で活躍されておられる福島様夫人に「尽力いただき感謝申し上げます。

時節柄一般ご参加の方は四名、他地域支部(国分寺)から一名、校友七名の合計十二名でしたが、適度な距離である六キロを落ち葉を踏みしめ、晩秋の一日を満喫し、大いに気分転換が出来たと思います。

途中給水休憩、トイレ休憩そして記念撮影と適度な休憩を取りながらのウォーキングでした。西武球場前駅で解散し、帰路に着きました。

来年は多くの方のご参加をお待ちしております。



校友訪問 ①

① 園芸店で活躍！(西尾さん)

二月初旬、東久留米駅西口より徒歩十分ほどの「辰巳屋園」をお訪ねしました。東久留米郵便局の前にある老舗園芸店で、明るく美人の店主に笑顔で迎えられました。こちらに校友の西尾さん(昭44年政経卒)が働いておられます。西尾さんの略歴は会報十一号で紹介されてい



赤い花に囲まれた西尾さん



美人店主さんと西尾さん

まが、福井県出身、新卒で入社された「英國屋

を早期退職された後、立川技術専門学校校園芸科に入学され半年間の教育を受けられた後植木屋さんに就職、さらに資格取得など研鑽を積まれました。その後平成二十二年から「辰巳屋園」に入店され現在に至っています。「辰巳屋園」は植木、草花、盆栽、園芸資材などの販売など手広く営業され、地元のみならず遠方からも多くのお客様がお見えになっています。西尾さんのお仕事は植木全般を担当され、店内のみならず近隣にある大きな畑の管理もされています。「出来る事は何でもやるという」ことをモットーに日々勤務されています。

② 街の自転車屋さんを経営(村越さん)

清瀬駅南口小金井街道沿いにある「村越自転車店」を訪ねてきました。創業から七十年余の老舗自転車店です。店主は村越勝重さん(昭50年工学部建築卒)で二代目店主です。一昨年店舗・住宅を立て替



お母さまに抱かれた村越さん

られ、現在三代目の息子さんと一緒に営業されています。卒業後一時建築業界に就職しましたが、先代の親父さんから強く家業を継ぐよう説得され現在に至っているとの事でした。村越さんには、会報に毎回広告掲載のご協力をいただいております。この誌面をお借りして改めて感謝申し上げます。

地元の商店会「清富士商店会」の会長を務められ、近隣からは厚い信頼をいただいております。コロナ禍でお客様の様の変化もあるようですが三代目と一緒に益々お元気で活躍されることを祈念しております。



三代目と一緒に

私の趣味シリーズ①

麻雀と将棋

福島 寛(昭37政経)

私は趣味として麻雀と将棋をよくやっています。特に麻雀は大学在学中からやっておりますので、キャリアは六十年余りになります。今では麻雀の牌を親指で触れた瞬間に、全ての牌が分かる程になりました。麻雀は一三六枚の牌からなり、四人が十三枚ずつ配られた牌から手作りをし、役を作って如何に早く上がるかを競うゲームです。麻雀は簡単な仕組みに見えますが、自分に配られた十三枚の牌は一生やっていますが、二度と同じ配牌はないと言われてます。そこに変化にとんだ面白さがあるのでしよう。麻雀は配牌の運、引きの運などで勝敗を大きく左右するともいいますが、その運を如何に自分に引き寄せるかというのもゲームの楽しさだと思います。一昔前までは男性ばかりでしたが、頭を回転させ手指を使うことから、健康志向と相まって女性のファンも増えてきました。お金を掛けずタバコも禁止の「健康麻雀」のお店も増えていきます。今は時々ですが、市内の雀荘でマスクをし、窓を開け放しにして、卓の間隔を充分に取って、仲間と卓を囲んで楽しんでおります。



手前左側が福島さん

めました。子供の頃に駒の動かし方は知っていましたが、会社の昼休み中に社員同士で時々差す程度でした。ですから初心者の段階からでしたので、将棋の本や、詰将棋の本に接し、またAI将棋をパソコンにインストールして、現在も勉強中です。将棋は中盤戦から終盤戦にかかりますと、指す手の一手によって流れが変わります。それだけ厳しく、奥が深いゲームと言えらると思います。この辺が麻雀とは違う所です。麻雀は一度や二度捨て牌を間違えても取り戻せるからです。

昨年の五月頃でしょうか、将棋の友人の一人が「日本将棋連盟」公認の三段を取得しましたので私も取得の方法を聞き、昨年六月頃より挑戦しましたところ、幸運にも十月には四段を取得することができました。なお、この制度は最高段位が六段です。実際の実力は、全くそれにはほど遠く、ただ運が良かったとしか言えません。しかし折角取得した四段ですので、「日本将棋連盟」に申請し、免状を頂くことにしました。免状は令和二年十一月現在の佐藤康光会長、渡辺明名人、豊島将之竜王の直筆サイン入りの立派なものでした。

将棋には「良い手を指すより悪い手を指すな」という言葉がありますが、私の好きな言葉の一つです。趣味の麻雀や将棋が一日も早く自由に出来るように、コロナ禍が過ぎ去れば良いと願っております。



日本将棋連盟四段の免状を前に

「紫紺句会」に参加して

国分寺地域支部 小林 信夫(昭49文)



国分寺地域支部の先輩、中西さんと一緒に、毎月句会にお邪魔しています。きっかけは、七年前の平成二十六年六月に立川で行われた多摩支部定時総会で、青梅、国立、昭島と並んで、清瀬

と国分寺の五地域支部が総会実行委員となり、ご縁が出来てからです。記憶は曖昧になっていますが、その折清瀬で俳句の会を始めると伺い、全く経験も無く、俳句はもとより文学的な才能は一切無い文学部卒(史学地理学科)ですが、臆面もなく参加してみました。

ありがたいことに、俳句のイロハを毎月、細見道子先生から教わるので、二三年経った頃からでしょうか、季語が重なることも、字余り・字足らずになることも、三段切れになることも少なくなりました。

出来はともかく、一応、句として成立するようになりますと、少し欲が出てくるもので、句会で選ばれたくなります。各人が三句を投句し、その全ての中から各自五句を選びます。自分の句が選ばれると、ちよつぱり嬉しく、全く選ばれないと、ちよつとがっかりしてしまうのが人情でしょうか。皆さんの句は、絶妙な季節感や、平素の暮らしがばりばかりか、お人柄や経験が溢れ出ていて、なんとも味わい深く感じます。良い句にめぐりあう、それだけで俳句を始めて良かったなと思う毎回です。

毎日、出かけるころも少なく、さほど変わらない日々を送っていると、句作りも簡単ではありませんが、気付いたら七年余りも「好き」が変わらずに続いています。何よりも飾らない紫紺句会の雰囲気がついても心地良く、句会後の懇親会も大いに楽しんでいます。

所属地域支部は住まいなどで決められていますが、第二の所属地域支部の制度が認められれば、迷わず清瀬地域支部を選びます。これからもよろしくお願いします。

山岡 幹一郎(平11文)

この度、清瀬校友会へ届いた招待券をいただき、家族五人で横浜みなとみらいに設置された木下大サーカスを



観覧へ行きました。緊急事態宣言が発令されて一日の開催の回数が減ったこともあり、何とか日程を調整してサーカスを観覧できたの

が、一月三十日。招待券の期限が切れる前日でした。

我が家の家族構成は私たち夫婦と上から六歳と四歳の長男、次男、二歳の長女で子供たちは今回、サーカスを見るのは初めて。折角なので、招待券にプラスして間近に見られるリングサイド席を事前に購入致しました。テント張りの会場に入る前に、入り口から会場までにもワクワクさせる仕掛けがありました。オリジナルグッズやフードが手に入る購買以外にも、アジアゾウと写真撮影ができるコーナーや子供の乗り物があったり、ゲームコーナーがあったり。我が家族は予定の二十分前に入口に入って、ポップコーンと飲物を買ひ、手もみ消毒をして会場入りしました。

入口を入ると大天井のテントの中は一種独特の雰囲気、子供たちも興味津々。長男は人見知りしない性格な

ので、リングサイド席のチケットを確認するスタッフのお姉さんに積極的に話しかけていました。

席に座って会場を見渡すと、コロナ対策で座席を空けていましたが、それを除けばほぼ満席。コロナで自粛を求められている中で、こうした娯楽は求められているのだと実感しました。

サーカスと言えば、かつては娯楽の王様でした。古代ローマでは、「パンとサーカス」を無償で大衆に与えることで、政治への不満から目をそらさせていたのを思い出しました。

定刻の少し前にピエロの二人組が出てきてコントが始まりました。前座として観客をリラックスさせてくれ、公演中も場面転換や次の演目の準備の際に色々と笑わせてくれました。このピエロは木下大サーカスでも人気者のようです。

いよいよ、グランドオープニング。釣りロープショウでダンサーが宙を舞い、華麗な演技を披露します。これから非日常の楽しいショーが始まるワクワク感を醸し出しています。

次のエキサイティングスパーパビリュージョンでは、箱の中に美女が隠れ、そこに剣を沢山刺すけど、あら不思議、美女は刺されず笑みを浮かべてポーズしています。お馴染みの光景で、仕掛けがあると分かっているもビックリしました。

次に日本の伝統芸として、七丁椅子が行われました。椅子の上に椅子を載せてさらに椅子を載せる。これを五段繰り返します。ゆっくりと時間をかけて椅子を載せていくので、見る方も息をのんで見つめます。五段目が乗って見事頂上で倒立をした時には大拍手でした。

休憩を挟んで後半の演目は、奇跡の猛獣ホワイトライオンショー。調教師のムチの合図で、ライオンが小さい椅子の上に立ったり、火の輪をくぐり、大ジャンプ。動物にここまで芸を仕込むのは大変で三年から五年かけてゆっくり仕込んでいくそうです。

次の空中大車輪では外国人二人組で振り子の車輪を交

互にジャンプしていきます。ジャグリング。タイミングがずれるとぶつかったり、落ちたりして大ケガをする危険な技です。見事に振り子の頂上に立ち交互にジャンプをして技を決めフィニッシュとしてジャンプして地上に降り立ちました。

最後の演目は空中ブランコ。空中ブランコで飛ぶ団員と受け取る団員がいて、息を合わせてキヤッチ。終わりに目隠しでジャンプして無事に成功すると場内は割れんばかりの大拍手でした。演目が終わるとグランドフィナーレで、出演者全員が出て挨拶をし、名残惜しい舞台は終了しました。

久々にサーカスを見て私と妻はとても堪能しました。どれも高レベルな演目で、団員たちの息もあい、非常に質の高い内容でした。それを支えるのは、このコロナ禍で興業収入が激減したのにも関わらずリストラを行わず、団員に大型免許等を取らせるなど温かいファミリー経営の賜物だと改めて思いました。福祉施設の子供たちに無



料招待券を配るなどの社会貢献活動にも力を入れていこうです。サーカスをみてワクワクとドキドキで笑顔を届けているのですね。

ところが、私の期待に反して子供たちはと言えば、どれぐらい凄い技か分からないのか、長男は寝そべり、次男は呆気にとられ、長女は指をしゃぶっていました。本当にもったいない。もう少し大きくなって小学生ぐらいになって理解できるようになったら、是非もう一度連れてこようと思ひ会場を後にしました。

なお、木下大サーカスの社長木下唯志(昭49経営)氏は校友会本部の副会長であり岡山県支部長です。

清瀬その四

粕川 偉二男 (昭48政経)

令和三年は新型コロナウイルス感染拡大が収まらず不安の中で明けました。コロナ禍での新年風景をスナップしてみました。



日枝神社の初詣の列



金山緑地公園でテント

日枝神社は「茅の輪」の位置の変更及び賽銭箱を移動して「密」を極力避けるなど感染予防をしておりましたが初詣の列は途切れることはありませんでした。近年川辺でのバーベキューに人氣が高まった金山緑地公園では、テントを張り静かにキャンプ気分を味わう家族が大勢いました。例年ですと成人式を終えた「新成人」達で賑わいを

見せる日枝神社では数組の新成人がお参りに訪れていました。

「お焚き上げ」は静寂の中、赤い炎を出していました。



成人式の日枝神社詣で



日枝神社境内のお焚き上げ

「紫紺句会の発足秘話と活動」

笹谷 榮吾 (昭46法)

① 私と俳句の出会い

私は、二〇一〇年四月清瀬市主催の「初めての俳句教室」に参加し、俳句結社「隗」主宰の大山雅由先生の講座を受講しました。先生は「西の松山 東の清瀬」をモットーに清瀬を俳句の街にした二〇〇九年の波郷没後四十年を記念した石田波郷俳句大会の発足に奔走した人です。私は「初めての俳句教室」に参加して間もなく先生指導の平林寺句会に入会、また、俳誌「隗」の編集に参加、石田波郷俳句大会では司会を担当するようになりました。この大会は、先生が早稲田大学卒業の關係から清瀬稲門会の皆さんが大会の運営を支援していました。

二〇二二年六月明大校友会清瀬地域支部が設立発足しました。同時に明大校友会に石田波郷俳句大会を支援してほしいとの声があがり私は対応に悶々としていました。

② 俳句同好会発足から「紫紺句会」に

二〇一三年十一月に大山雅由先生が急逝され、俳句結社「隗」や石田波郷俳句大会の後継を奥様の大山恭子さん(俳号細見道子さん)が引き継ぐことになりました。細見先生が明治大学の校友であることが分かり、俳句大会支援には校友会にも俳句の会が必要と感じた私は、先生に俳句の指導をしていただけないか相談しました。先生のご快諾をいただき、校友会役員会の承認を得て、二〇一四年度校友会総会の事業計画に「俳句同好会の発足」が明記されました。

二〇一四年六月八日の第一回俳句同好会は校友会役員を中心に十五名が出席し開催されました。その後二〇一五年四月に「紫紺句会」に改称、本年六月には七周年を迎えます。参加者は近隣の国分寺、東久留米の校友、細見先生指導の句会会員にまで広がってきました。また、石田波郷俳句大会では今までに紫紺句会会員延べ五名が入選しています。

③ 石田波郷俳句大会と地域社会貢献活動

毎年秋に開催される石田波郷俳句大会の実行委員会に細見先生、佐藤房夫さん、榎谷の三名が参加、大会当日の運営には校友会及び紫紺句会の会員が協力しています。校友会からは大会運営支援の寄付がなされています。また、「西の松山 東の清瀬」モットーとする俳句の普及活動の一環として清瀬市内の小中学校の「俳句出前授業」に多くの校友が参加協力しています。

「紫紺句会」活動は当清瀬地域支部の目的の一つ「地域社会貢献活動」に寄与しています。

ある日私は、円福寺の境内の掲示板で「恥をかいて覚えたい」といつまでも忘れずに役立つものだ」という講話を目にしました。これはまさに俳句に向かう私を叱咤する言葉です。校友の皆さんといつまでも俳句を楽しんでいければいいなと思っています。

【紫紺俳壇】



紫紺句会指導

俳句結社「隗」 主宰 細見 導子

ささなくわの赤千の花万の花

紫紺句会

母親似笑窪口元滑子汁

寒風や魚板の告ぐる平林寺

梅便り去年の写真笑みこぼる

初景色向かひの庭に猫の過ぐ

あゝあゝ鳥も帰る秋夕焼

振り出しに戻る会話を日向ぼ

穴田 作道

粕川 偉二男

粕谷 彌太郎

小林 信夫

斉藤 強

佐藤 房夫

庭先の野良猫じやらす秋の蝶

北風や近くに見える富士の山

トロンボーンジャズ吹く少女秋の色

残り蚊や声なく潜む竹林

万両に袋掛けたし鳥の声

黙々と給食の子ら春を待つ

咳ころぶ人目つかがふバスの中

霜柱押し上げ芽吹く青き草

一望の秩父雪覆稲荷山

島崎 光

中西 宣一

中村 曠

西尾 修一

福島 寛

榎谷 榮吾

溝田 充

村野 良明

山尾久美子



チャレンジ!

詰将棋 (五手詰)

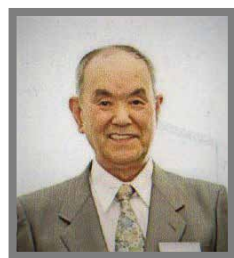
解答は次頁

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					飛	王	王	王	一
					角				二
									三
						歩			四
									五
									六
									七
									八
									九

▲持ち駒 なし

故和田人男さんを偲んで

初代支部長 粕谷彌太郎 (昭28政経)



また、一人仲間が消えました。残念です。

和田さんは校友会清瀬設立前から多摩支部の地域支部拡大にご尽力いただきました。当地域支部発足と同時に幹事長を引き受け、積極的に支部運営と活動に貢献されました。

設立五周年記念行事では実行委員会を支援協力し、地元小学校の合唱団、市民団体の第九合唱団そして母校グリークラブ、同駿河台倶楽部を招いた音楽会は清瀬けやきホール客席をわかせた盛大な記念行事はいまだに脳裏に残っています。

故和田人男様のご冥福を心からお祈り申しあげ、今後とも見守って頂けるよう頑張ります。合掌

訃報

故 和田人男様 (昭33法)

令和二年十二月八日 逝去されました
享年八十五歳でした

ご生前の功績を偲び謹んで哀悼の意を表します

◎会員募集中!

年会費 二千元

夫婦会員割引制度あり 配偶者一千元

※入会初年度は無料です。

◎会費納入のお願い!

本会報は皆様の会費で制作しています。

「世のため、人のため、真心と、奉仕の精神」

杉浦整骨院 院長 杉浦克昌様

世のため、人のため、真心と、奉仕の精神で一九九七年（平成九年）二月二十四日、開院して早や二十四年、今では西武池袋線はもとより西武新宿線、東上線、遠くは高尾、堀切から患者様が来院しています。現在は清瀬市北口で診療を推進しています。

清瀬市災害医療救護協議会委員、

清瀬市医療介護連携推進協議会委員の委嘱を受け

清瀬市に貢献しています。

東洋医学を駆使し、整骨（ほねつぎ）、鍼灸、マッサージ、保険医療を推進しています。

◎診療科目

骨折、脱臼、打撲、捻挫、ギックリ腰、交通事故傷害、腰痛、寝ちがい、運動障害、リハビリテーション、機能訓練指導療治

○武蔵野総合クリニックと提携

○防衛医科大学病院紹介

○東村山市多摩北整形外科病院紹介

○順天堂大学病院紹介



詰将棋解答

▲3一飛成 □同金
▲3三角成 □2一玉
▲1一金 まで5手詰



NPO法人

健康遊技たんぽぽ

○健康麻雀

午前の部	10:00~13:00	500円
午後の部	13:30~16:30	500円
一日の部	10:00~16:30	1,000円

*入会金...1,000円
*年会費...2,000円
☆セットのお客さま大歓迎(要予約)

清瀬駅南口から徒歩1分
清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階
☎042-495-7708

杉浦整骨院

施術時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	●
15:00~21:00	●	●	●	●	●	18:00まで	18:00まで

★ウィークデイは 21:00まで 施術致します

休日 火曜日

●挫傷・打撲・捻挫・骨折・脱臼
●各種保険取扱 ●(マッサージはり)

TEL 042-495-2337

清瀬市元町1-8-37
清瀬駅北口前出ですぐ [P]あり

POSTターミナルの導入・開発支援など

有限会社 マイテック

粕谷彌太郎 (S28政経)

本店
〒204-0022 清瀬市松山1-27-1
Tel042-492-0611 Fax 042-495-8357

本社事務所
〒113-0033 文京区本郷2-40-7
YG30ビル 6F
Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763
URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

あなたの街の
村越自転車

〒204-0022
清瀬市松山2-3-3
Tel 042-491-0349
村越 勝重(S50工)

みんなの「会報」にご協力を！
「思い出」「趣味」「旅行記」「エッセイ」
など
◎投稿大歓迎！
応募は紫紺ネットでお願ひします。
清瀬紫紺ネット
kiyose-event@meiji-tama.net

◎清瀬地域支部の情報は
清瀬のホームページ
<https://meiji-3.jimdofree.com/>

QRコードは